

植草学園大学看護学部
学生の確保の見通し等を記載した書類

学校法人 植草学園

植草学園大学看護学部学生の確保の見通し等を記載した書類

目 次

学生の確保の見通し等を記載した書類	4
(1) 新設組織の概要	4
①新設組織の概要（名称，入学定員（編入学定員），収容定員，所在地）	4
②新設組織の特色	4
1) 養成する人材像，学位の分野	4
2) 近接する学問分野を持つ既設組織	4
(2) 人材需要の社会的な動向等	4
①新設組織で養成する人材の全国的，地域的，社会的動向の分析	4
②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的，地域的動向の分析	5
③新設組織の主な学生募集地域	6
④既設組織の定員充足の状況	6
(3) 学生確保の見通し	9
①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	9
ア 既設組織における取組とその目標	9
イ 新設組織における取組とその目標	12
ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく，新設組織での入学者の見込み数	13
②競合校の状況分析（立地条件，養成人材，教育内容と方法の類似性と定員充足状況）	14
ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析，優位性	14
【競合校の選定理由】	14
【競合校との比較分析】	14
1) 教育内容と方法	14

2) 入試（競合校の受験時期, 入学手続時期との関係）	15
3) 学生納付金, 奨学制度などの修学支援の内容	15
4) 就職支援の内容	15
5) 取得できる資格	15
イ 競合校の入学志願動向等	16
ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等	16
エ 学生納付金等の金額設定の理由	16
③学生確保に関するアンケート調査	16
④人材需要に関するアンケート調査	18
(4) 新設組織の定員設定の理由	18

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 新設組織の概要

①新設組織の概要（名称，入学定員（編入学定員），収容定員，所在地）

新設組織は以下のとおりである。

新設組織	入学定員	編入学定員	収容定員	所在地
植草学園大学 看護学部 看護学科	80	—	320	千葉県千葉市若葉区小倉町 1639 番 3 (千葉若葉キャンパス) 千葉県千葉市中央区椿森 4 丁目 1 番 2 号 (千葉医療センター内椿森キャンパス)

② 新設組織の特色

1) 養成する人材像，学位の分野

新設する看護学部看護学科（仮称）は地域社会との信頼関係に基づく、地域密着型の看護学教育の実施体制を特色とする。養成する人材は、共生社会（インクルーシブ社会）の実現に看護学の立場から地域社会に貢献し、人々の生命と人権を尊重し、豊かな人間性と高い倫理観をもち、科学的かつ論理的思考に基づき主体的に行動できる専門的知識・技術を修得した看護師及び保健師である。学位は「学士（看護学）」である。

2) 近接する学問分野を持つ既設組織

既設学部学科等	入学定員	収容定員	所在地	備考
保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻	40	160	千葉県千葉市若葉区小倉町 1639 番 3	
保健医療学部 リハビリテーション学科 作業療法専攻	40	160	千葉県千葉市若葉区小倉町 1639 番 3	

(2) 人材需要の社会的な動向等

①新設組織で養成する人材の全国的，地域的，社会的動向の分析

国は令和 7（2025）年までに超少子高齢社会に対応した社会保障制度の構築を目指し、医療・介護分野においては、高度急性期から在宅医療・介護までの一連のサービスを切れ目なく提供するための、効率的かつ質の高い医療提供体制と地域包括ケアシステムの構築を図っている。＜資料 1＞

医療従事者の需給に関する検討会・看護職員需給分科会 中間とりまとめ＜資料 2＞によると、都道府県による令和 7（2025）年における看護師の供給推計は、実績に基づく就業者数推計 182 万人、都道府県の供給推計の総数 175 万人と見込まれ、約 7 万人の不足が生じるといふ。都道府県別の医療施設者の推移（人口 10 万人当たり）をみると、本学が位置する千葉県の就業看護師数は 46 位と著しく低い。近隣首都圏の就業看護師数を見ても、東京都 43 位、神奈川県 45 位、埼玉県 47 位である。今後、団塊

ジュニア世代の高齢者数が1都3県で最大の伸びになっていくことから、千葉県をはじめ首都圏の看護職員確保は必須である。

看護の領域における需要を見ると、『「2040年を見据えた社会保障の将来見通し」に基づくマンパワーのシミュレーション』平成30(2018)年5月<資料3>では、令和22(2040)年に向けて高齢化の進展や地域医療構想による病床の機能分化・連携に伴う訪問看護を含む介護分野の需要増大が推計されている。訪問看護に就業するためには経験が必要との懸念が根強く、新卒看護師等が訪問看護へ就業する選択肢はまだ確立されていない。本学新設看護学部では、設置の趣旨に述べたように「地域共創ケアⅠ～Ⅲ」等の科目を学修することで、訪問看護を含め地域社会の人々が求める看護ニーズに応え、実践できる人材を養成することを大きな目標としている。

②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

我が国の18歳人口は2021年の112.1万人から、2033年には100.6万人となり11.5万人減少となるが、エリア別にみると関東圏は緩やかな減少である。本学が位置する千葉県の2021年比は103.9%であり、令和11(2029)年までは100.6%と100%を超えている。令和12(2030)年から令和15(2033)年までは98%前後とほぼ現状維持、令和16(2034)年は93.3%と下がるものの全国平均91.3%より高い値を示している。
<資料4>18歳人口の推移

日本私立学校振興・共済事業団「令和5(2023)年度私立大学・短期大学等入学動向」<資料5>によると、令和5年時点で私立大学が設置する「看護学部」は110学部で、その入学定員合計は、9,978名、入学者合計数は9,900名で、入学定員充足率は99.22%であり、看護学部の定員充足状況は極めて堅調である。

本学の位置する千葉市及びその近隣地域の私立大学が設置する「看護系学部」13学部の令和5年度入学定員合計数は1,375名、入学者合計数は、1,457名で、その入学定員充足率は106%である。千葉県の競合校の2022年度定員充足率は、本学と同一市内の淑徳大学101%、東都大学100%、隣接地域の東京医療保健大学110%、東邦大学110%、国際医療福祉大学110%であり、いずれも定員充足率100%を超えている。

また、全国の看護系大学1学部あたりの入学定員人数平均は90名である。本学は教育支援の充実を目指しそれを下回る入学定員80名と設定している。国家資格を取得できる看護学部は受験生の人気も高く、高度な知識を身に着けることのできる大学への入学者数は表1のとおり専門学校よりも増加傾向にある。これらのことから、新設する看護学部の定員充足は達成可能である。

表1 看護師学校養成所 入学状況 入学者推移

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
大学	25,619人	25,815人	26,110人	26,517人	26,604人
専門学校	27,197人	27,064人	26,435人	25,553人	23,952人

※e-Stat「看護師等学校養成所入学状況及び卒業生就業状況調査」より

③新設組織の主な学生募集地域

千葉県における大学の「出身校の所在地県別入学者数」上位 5 都道府県は、1 位が千葉県で 52.5%と半数を占める。以下、東京都 22.4%、茨城県 10.8%、埼玉県 9.8%と続く。

本学の直近年度の出身高校の所在地県別入学者数は、表 2 のとおり千葉県が 133 名で構成比 90.5%を占め、その他の都府県が 14 名で 9.5%である。また、千葉県ならびに東京都、茨城県で実施した高校へのニーズ調査で、第一志望で入学したいとの回答が、千葉県 79 名、東京都 18 名、茨城県 3 名との結果が得られた。

表 2 出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位 5 都道府県）※直近年度

順	都道府県名	人数	構成比	順	都道府県名	人数	構成比
1	千葉県	133 人	90.5%	4	東京都	1 人	0.7%
2	茨城県	8 人	5.4%	4	長野県	1 人	0.7%
3	新潟県	2 人	1.4%	4	大阪府	1 人	0.7%
4	栃木県	1 人	0.7%	全 体		147 人	100.0%

これら本学看護学部が置かれる千葉県への入学状況、本学既設学部への入学者数及びニーズ調査から、千葉県を中心に東京都を含む関東圏に募集地域を設定する。また、既設学部で入学実績のある青森県、山形県、福島県、新潟県、長野県、静岡県、沖縄県、九州地方についても幅広く募集を展開する。

なお、本学が位置する千葉県は、上述したように日本全国の中でも看護職員確保の必要性が極めて高く、看護職養成のニーズが持続的に存在する。このため、外国人留学生や社会人の入試枠も若干名であるが設定する。

<資料 6> 新設組織が置かれる都道府県への入学状況（別紙 1）

④既設組織の定員充足の状況

発達教育学部発達支援教育学科

発達教育学部発達支援教育学科の令和元年度から令和 5 年度までの定員充足状況は、表 3 のとおりである。最近 5 年間の収容定員充足率の平均をみると 0.82 倍である。令和 2 年度までは 0.9 倍以上を維持していたが、令和 3 年度には 0.84 倍、令和 4 年には 0.74 倍と徐々に低下し、令和 5 年度には 0.65 倍となった。

発達教育学部における充足率の低下の一つの原因として、コロナ禍の影響に加え、発達教育学部の養成する小学校教諭、特別支援学校教諭について過剰な労働負担、保育士、幼稚園教諭について給与の低さがマスコミ上で多く喧伝され、この領域の志願者が全体的に低下したことが考えられる。これは千葉県における他大学の関連学部においても低下が見られていることから推測できる。<資料 7>

二つ目として、新たに教育学部を設置し教員養成に力を入れる近隣大学が増え、その成果を積極的にアピールするようになり、そちらに志願者が流れた可能性が高い。

本学は実績があるにもかかわらず高校生に対するそのアピールが十分でなく、相対的な低下が生じた。したがって、志願者数、入学者数を増やすために①教育職の魅力をも十分に高校生に伝えること、②本学の教員養成の成果（令和5年度小学校教諭・特別支援学校教諭採用者47名、千葉県小学校教諭合格率88%、千葉県特別支援学校教諭合格率55%：令和4年度保育士就職率全国5位、幼稚園教員+保育士採用者数関東地区（除く東京）4位）をアピールすることを主軸に学生募集活動を実施する。

また、発達教育学部の入学定員の見直しを行い、現在の入学定員140名を100名に変更し、40名を看護学部に移行する。入学定員の変更により表4のように定員充足率の改善が期待できる。

<資料8> 既設学科等の入学定員・収容定員の充足状況（直近5年間）（別紙2-1）

保健医療学部リハビリテーション学科

保健医療学部は令和2年度より、理学療法学科からリハビリテーション学科として理学療法学専攻に作業療法学専攻を加え改組した。理学療法学科及び理学療法学専攻においては最近5年間の収容定員充足率はほぼ1.0倍を維持している。

一方、作業療法学専攻の収容定員充足率は開設年度の令和2年度が0.65倍、令和3年度が0.78倍、令和4年度が0.65倍、令和5年度が0.62倍となっており、平均で0.66倍と低い状態が続いている。志願者は少ないが一定の志願者がいることから、18歳人口の減少の影響は少ないものと考えられる。

作業療法学専攻の志願者が少ない原因として、作業療法士の仕事の内容が十分に一般に周知されていないことが考えられる。したがって、作業療法学専攻の充足率を満たすために①作業療法士の魅力を高校生に伝える、②学生募集の活動を県内だけでなく県外にも展開する、③本学の特徴である、作業療法学専攻において全国で2つしかない音楽療法士の資格が取得できるカリキュラムがあることをよりアピールする。

<資料9・10・11> 既設学科等の入学定員・収容定員の充足状況（直近5年間）（別紙2-2・2-3・2-4）

表3 既設学科定員充足状況

発達教育学部 発達支援教育学科 定員充足状況

年度	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	入学定員充足率	収容定員	在籍数	収容定員充足率
令和元	140	193	183	132	0.94	560	533	0.95
令和2	140	195	171	125	0.89	560	520	0.93
令和3	140	147	121	84	0.60	560	475	0.85
令和4	140	125	121	84	0.60	560	417	0.74
令和5	140	118	105	80	0.57	560	362	0.65
平均	140	155.6	140.2	101.0	0.72	560	461.4	0.82

保健医療学部 理学療法学科 定員充足状況

年度	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	入学定員充足率	収容定員	在籍数	収容定員充足率
令和元	40	87	62	43	1.08	160	151	0.94
令和2	—	—	—	—	—	120	120	1.00
令和3	—	—	—	—	—	80	79	0.99
令和4	—	—	—	—	—	40	43	1.08
令和5	—	—	—	—	—	—	11	—
平均	40	87.0	62.0	43.0	1.08	100	—	1.01

令和5年度の「11名」留年生

保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻 定員充足状況

年度	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	入学定員充足率	収容定員	在籍数	収容定員充足率
令和元	—	—	—	—	—	—	—	—
令和2	40	126	59	46	1.15	40	46	1.15
令和3	40	120	76	43	1.08	80	87	1.09
令和4	40	142	83	44	1.10	120	127	1.06
令和5	40	99	66	40	1.00	160	154	0.96
平均	40	121.8	71.0	43.3	1.08	100	103.5	1.04

保健医療学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 定員充足状況

年度	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	入学定員充足率	収容定員	在籍数	収容定員充足率
令和元	—	—	—	—	—	—	—	—
令和2	40	70	59	26	0.65	40	26	0.65
令和3	40	80	60	36	0.90	80	62	0.78
令和4	40	61	37	20	0.50	120	78	0.65
令和5	40	58	34	26	0.65	160	99	0.62
平均	40	67.3	47.5	27.0	0.68	100	66.3	0.66

表4 入学定員の変更による定員超過率是正の見込み

学科	A.現行の入学定員	B.入学者数 (最近5年間の平均)	定員超過率 (B/A)	C.変更後の入学定員	定員超過率 (B/C)
発達教育学部 発達支援教育学科	140	101	0.72	100	1.01
保健医療学部 理学療法学科 (令和5年度で廃止予定)	40	43 1年間	1.08	40	1.08
保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻	40	43 4年間	1.08	40	1.08
保健医療学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻	40	27 4年間	0.68	40	0.68
平均			0.89		0.96

(3) 学生確保の見通し

① 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

学生募集及び確保について、本学の既設学部における入学までの取組を図1に示す。

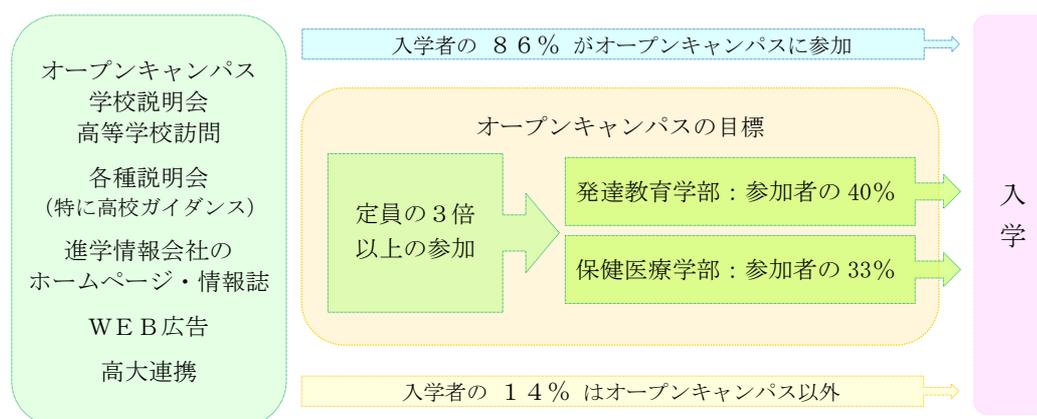


図1 既設組織における学生確保の取組

令和5年度入学者146名のうちオープンキャンパスに参加して入学した者は126名であり、全入学者の86.3%を占めている。すなわち、ほとんどの入学者はオープンキャンパスに参加している。学生確保に関しては、オープンキャンパスへの3年生の参加者数及び入学率（入学者数／参加者数）が指標となる。

表5に示したように、発達教育学部ではオープンキャンパス参加者の40%強が、保健医療学部では参加者の30%強が入学している。したがって、オープンキャンパスの参加者数を増加させ、その内容の充実により志願者を増加させることが重要である。これまでの入学率を基に計算すると、発達教育学部では定員の2.5倍の350名（定員100名にした場合は250名）、保健医療学部では定員の3倍（各専攻とも120名）のオープンキャンパス参加者数を達成することが目標となる。

表5 オープンキャンパス参加者の入学率・志願率推移（2019(R元)～2023(R5)年度入学者）

学部専攻	OC参加者数 (新規3年生人数)						志願者数					志願率(%)					入学者数					入学率(%) (全入試区分)				
	R元	R2	R3	R4	R5	増減 (R5/R4)	R元	R2	R3	R4	R5	R元	R2	R3	R4	R5	R元	R2	R3	R4	R5	R元	R2	R3	R4	R5
発達	180	183	154	140	152	1.09	114	105	79	74	75	63.3	57.4	51.3	52.9	49.3	98	93	71	69	68	54.4	50.8	46.1	49.3	44.7
理学	104	124	98	103	108	1.05	49	57	53	40	51	47.1	46.0	54.1	38.8	47.2	34	42	34	31	35	32.7	33.9	34.7	30.1	32.4
作業	-	53	59	49	69	1.41	-	23	35	20	35	-	43.4	59.3	40.8	50.7	-	16	27	13	23	-	30.2	45.8	26.5	33.3
合計	284	360	311	292	329	1.13	163	185	167	134	161	57.4	51.4	53.7	45.9	48.9	132	151	132	113	126	46.5	41.9	42.4	38.7	38.3

なお、オープンキャンパス参加者への参加動機調査によると 1.高校教員の紹介, 2.進学情報サイトや情報誌, 3.家族・親戚の紹介, 4.高校で行われた学校説明会, 5.WEB 広告, 6.先輩の紹介の順位であった。このことから, 高校訪問をはじめ高校における学校説明会, 連携授業, 出前授業等で高校と密に連携することが重要であり, これらに注力し学生募集を展開する。

このため, 令和5年度には従来の高大連携校(23校)を対象とした大学における高大連携授業, 高校における出前授業の実施, 附属高校における大学紹介, SNSを活用した発信などの取組に加えて, 新たに学部教員の高校訪問の強化, 高校進路指導部教員を対象とする大学説明会, ホームページの改善・改訂と「受験生応援サイト」の充実, WEB広告の年間導入を展開した。具体的な取組内容及び実績は次の表6のようになる。

表6 取組と目標

取組	実施体制	実施内容	令和6年度入試に向けた 令和5年度実績	今後の目標
オープンキャンパス 学校説明会	教員 入試・広報課	教員による学部・学科の概要説明, 模擬授業, 体験授業。 入試・広報課員による入試説明, 学生生活の相談。 さらに, 新たに在学生による学部・学科説明, 各学部学科の学修や学生生活を紹介しながら語り合う「学生トーク LIVE」, サークル紹介等, 今までにないコンテンツの充実。	3月末より12月まで計14回(対面11回, オンライン3回)開催した。 高校3年生の参加者は329人と前年度から13%増加。	新3年生の令和5年度の参加者の約3倍の540人の参加を目標とする。 また, 高校生が進路を決めるのが早まっているので, 高校1年生・2年生の参加者の増加を図る。
高等学校訪問	教員 入試・広報課	4・5月に, 千葉県内の高校ならびに近隣都県及び本学への入学生の多い福島・山形・長野・静岡県の高校を訪問。7月から新規指定校を訪問。 特に発達教育学部の教員16名, 保健医療学部の教員17名も高等学校を訪問し, 学部の詳細な説明を行った。訪問先高校出身在学生がいる場合には, 学生の状況を合わせて報告。	令和5年度は前年度訪問数の1.5倍になる336校を訪問。これをきっかけに, 教員の出前授業の依頼を46校から受けた。	約1,000校の高校訪問を目標。
高校進路指導部教員を対象とする大学説明会	教員 入試・広報課	千葉県及び近郊地域の高校の進路指導担当教員を対象とした「高校教員対象植草学園大学入試説明会」を開催。	コロナ禍で中断していた千葉県内の高校進路指導担当教員対象説明会を令和5年5月26日に実施した。14名の進路指導担当者が参加。	時期を新年度早々(4月)に実施。 50校の参加を目標。

各種説明会	入試・広報課 教員	<p>高校ガイダンスでは、分野の紹介・授業体験等を教員が、入試説明・学校説明の要望については入試・広報課員が担当。</p> <p>会場ガイダンスは、本学に入学した実績がある地域とし、合わせて現地の高校を直接訪問することで、在学生・卒業生の活躍の様子などを説明。</p>	<p>高校ガイダンスでは 100 校 1,200 人の高校生に、会場ガイダンスでは 49 会場 230 人の高校生に対応した。</p>	<p>3,200 人の生徒に対して対応できるように、回を重ねる。</p>
大学案内 学園情報誌	入試・広報課	<p>大学案内は資料請求者への発送、進学情報業者からの直接送付、会場ガイダンス・学校説明会またオープンキャンパスで参加者に配布。</p> <p>学園情報誌は、大学、短大、附属高校、附属園の活動状況も含め植草学園の動きがわかる内容と学生募集を兼ねたもので入試資料請求者にも配布。</p>	<p>大学案内については、令和 4 年度の資料請求による配布数は 11351 部であった。このうち 65 名が令和 5 年度に入学、入学生 146 名のうち 44% の生徒であった。</p> <p>学園情報誌については、全国から資料請求のあった高校生約 7,000 人を対象に発送。</p>	<p>配布数の増加を図り、大学案内の配布数を 20,000 部、学園情報誌の配布数を 15,000 部とする。</p>
ホームページ	教員 広報戦略サポート会社 入試・広報課	<p>ホームページの改善・改訂を進め、閲覧者にとってわかりやすく、必要な情報を得られ、本学の魅力をアピールできるものとする。特に「受験生応援サイト」の充実に努める。</p>	<p>令和 5 年度から受験生にとってのわかりやすさを追求した改訂を行った。特に本学のイメージがより伝わるよう動画でアピール、オープンキャンパスへの誘導、導線を工夫、WEB 広告を毎月配信。その結果、オープンキャンパスのページのアクセス数は、改訂前には 37,058 アクセスであったが、改善後は約 60,000 アクセスまで増加。</p>	<p>アクセス数を 70,000 件とする。</p>
SNS 等	入試・広報課 教員	<p>SNS を活用し、高校生への大学の行事やニュース、また入試情報、WEB 広告によるオープンキャンパスの案内を、タイムリーに配信。</p>	<p>X のフォロワー令和 5 年 8 月で 1,000 人以上。</p> <p>Instagram のフォロワー令和 5 年 11 月で 794 人。</p> <p>令和 5 年度 8 月までの WEB 広告表示回数は 5,972,064 件。</p>	<p>フォロワー数の目標を毎年 200 人増とする。</p>
附属高校連携	入試・広報課	<p>大学の特別見学会、進学相談会、大学教員による学部説明会や附属高校連携講座プログラムを実施。</p>	<p>特別見学会は、附属高校の保護者と生徒を対象に、附属高校卒業生がプロデュースし実施。27 名の生徒が保護者と参加し大変好評であった。</p> <p>附属高校連携講座プログラムは 3 回実施し、16 名が参加。</p>	<p>連携をよりに強化し、附属高校の入学者をさらに 10 名程度増やす。</p>

これらの取組により、令和 5 年度のオープンキャンパスにおける 3 年生の参加者数は、令和 4 年度に比べ、発達教育学部は 1.3 倍、理学療法学専攻は 2.4 倍、作業療法学専攻は 1.8 倍であり、目標値には達していないが増加している。そして、令和 6 年度の一般入試、共通テスト利用入試を待たない時点での発達教育学部の入学手続者は 91 名と、令和 5 年度（80 名）より 10%以上増加し定員充足率は令和 4 年の 0.57 から 0.65 に増加している。保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻及び作業療法学専攻の令和 6 年度の入学手続者は合わせて 53 名で定員充足率は令和 4 年の 0.83 から 0.66 となっている。両学部とも今後の一般入試、共通テスト利用入試の結果を待ちたい。

<資料 12> 既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績（別紙 3）

イ 新設組織における取組とその目標

看護学部開設の周知が重要である。その方法として、高校訪問と地方ガイダンスを基本とし、さらに進学情報会社による進学ガイダンスへの出展を利用しての高校生への PR 及び WEB 広告、大学 SNS を有効に使った広報によりオープンキャンパスの参加者数を増やし、オープンキャンパスにおいて具体的な本学部の特色と教育内容の理解を図る。

本学の競合校の 令和 5 年度入試では、淑徳大学は定員 100 名に対し 364 名の志願者で 106 名の入学者、実質倍率 3.4 倍、城西国際大学は定員 100 名に対し 279 名の志願者で 111 名の入学者、実質倍率 2.5 倍、帝京平成大学は定員 135 名に対し 570 名の志願者で 144 名の入学者、実質倍率 4.0 倍、和洋女子大学は定員 100 名に対し 349 名の志願者で 118 名の入学者、実質倍率 3.0 倍、本学と同じ定員 80 名の聖徳大学は定員 80 名に対し定員の 3 倍以上 246 名の志願者で 74 名の入学者、実質倍率 3.3 倍である。

<資料 13>

これを踏まえ、本学看護学部においても定員の 3 倍（240 名）の志願者の確保を目標とする。既設の保健医療学部の入学率 33%<表 5>を基に試算すると、新規 3 年生のオープンキャンパスの参加者 340 名以上を確保する必要がある、しっかりとした広報戦略で臨むこととする。

そのため、県内及び近隣県の高校訪問を入試・広報課員並びに既設学部の看護関連教員により行う。既設学部と連携し、年間 1,000 校の高校訪問を実現する。特に医療・福祉に特化したコースをもつ高校には、既設の保健医療学部教員と連携し、高校側のニーズに応える形での出前授業や探究学習の学びに繋がるような講座など、授業に参画できる内容を用意し PR を展開していく。また、本学部は閉校となる国立病院機構千葉医療センター附属千葉看護学校を引き継ぐものであり、この看護学校への進学実績のある高校への訪問も定期的かつ重点的に行う。

また、県外の志願者が安心して通学できるための支援体制を整える。一時閉鎖していた本学の寮の再開や不動産会社との提携による賃貸割引制度、学務課学生係を中心とした一人暮らし支援体制の強化、既設学部で行われてきたきめ細やかな学生生活・就職までの支援体制等を広報していく。<資料 14>

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

前述のように、定員確保（80名）のためには、定員の3倍以上（240名）の高校生の志願が目標となる。そのため、オープンキャンパスへの参加者数の目標を340名以上に設定する。看護学部を取組ごとに見込まれる入学者を以下に示す。

- 1) 高校訪問は、最も中心になる募集活動である。千葉県内及び近県である東京都、茨城県、埼玉県、神奈川県など、本学入学に実績のある高校、医療系のコースを設置している高校、千葉医療センター附属千葉看護学校に入学実績のある高校に入試・広報課員、看護系教員が学部の広報のために年間1,000校以上の高校訪問を行う。並行して保健医療学部教員、発達教育学部教員も高校ガイダンス、高大連携授業、出前授業などの機会に応じていくが、看護学部も含め本学の紹介を行い、オープンキャンパスへの参加及び生徒の受験につなげる。高校ガイダンス、会場ガイダンスでは年間3,200名（看護学部は1,300名）の高校生に対応することを目標とする。これにより 200名の受験者を見込んでいる。
- 2) 本学附属高校には本学への進学を目指すタイアップクラスがある。大学教員は各種の高校授業の支援を行うと共に、本学の各学部・学科の紹介を行っているが、看護学部についても積極的に学部の紹介や看護師体験を実施し、職業への理解と共に本学への理解を深めていけるようにしていく。附属高校からは毎年他大学の看護学部への進学希望者が20名程度おり、このうち 15名程度の受験者を見込んでいる。
- 3) 地方ガイダンスは、看護学部志願者の集まるガイダンスの中から既設学部で入学者実績があった地方を絞り込み、高校訪問と合わせて実施する。具体的には青森県、山形県、福島県、新潟県、長野県、静岡県、沖縄県、九州地方であり、既設学部も含めて重点的な高校訪問を行う。これにより 20名程度の受験者を見込んでいる。
- 4) 千葉県内、東京都等で行われる医療系大学を紹介する業者主催の会場ガイダンスに参加していく。また、医療系を志願する生徒に届くDMを送付し、本学を広く周知しオープンキャンパスへの参加につなげる。これにより 35名の受験者を見込んでいる。
ここまでの受験者の見込みは合計340名で、想定している240名を超える。
- 5) WEB広告については、広報戦略サポート業者と定期的に戦略会議をもちながら活用してきているが、看護学部についてもその内容を積極的にアピールしていく。WEB広告は、高校訪問、高校ガイダンスでの教員による模擬授業、オープンキャンパスの周知を図るための役割であり、高校訪問等で直接関わることのできない高校生へのアプローチとなる。

6) 大学 SNS, DM, 高校教員へのメールマガジン配信による広報は、入試・広報課員が日常的にオープンキャンパスや入試に関わる日程などの情報を随時提示している。フットワークの軽さを活かし、タイムリーな情報を高校生に共有していく。直接出願につながるものではないが、心理的なつながりを高校生と持つことができ、重要な手段である。令和 6 年度は、進路に不安を抱いている高校生に対して、より質問等に応じていけるよう LINE も活用していく。

これらの取組を通して、オープンキャンパスに 240 名以上の参加者、定員の 3 倍 (240 名) の受験者を確保する。なお、看護学部に入学者は、進路決定の時期が早いため、高校 3 年生はもちろん、高校 1・2 年生には特に重点的な働きかけを行う。例えば、本学では高大連携校の生徒に対し、夏季休業中に高校生を科目等履修生とした集中講義を行い、入学後の単位化を行っている。令和 5 年度は心理学の授業に 14 名の高校生が参加し、全員が本学に進学予定である。このような機会を持ち、本学やその授業への理解を深め、学びに意欲のある生徒を積極的に取り込む。

②競合校の状況分析 (立地条件, 養成人材, 教育内容と方法の類似性と定員充足状況)

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析, 優位性

【競合校の選定理由】

本学看護学部が主たる学生募集地域とする千葉県に所在する、想定する学力層と同程度の学力層の看護学部を持つ大学である。

【競合校との比較分析】

1) 教育内容と方法

他の競合校と比較して本学看護学部が独自に持つ特徴は次の 3 つである。

1. 建学の精神に則った教育

本学は多様な人々が共に暮らせる共生社会実現を目標としており、その実現のための疾患や障害、発達への支援は本学のどの学部でも目指す、他大学にはない大きな特徴である。発達教育学部では小学校、特別支援学校、幼稚園の教員、保育士を (特に特別支援教育やインクルーシブ保育を重視)、保健医療学部では理学療法士、作業療法士を養成しているが、看護学部は新たにその一員として、共生社会実現に貢献する看護師の養成に加わることになる。教養教育科目は、千葉若葉キャンパスで他学部生と共に学び、多様な教育・保育・医療支援職種を目指す学生と交流することができる。特に保健医療学部生とは異職種協働の基礎を共に学び、発達教育学部生とは各種障害やその支援について学ぶことができる。

2. 地域密着型看護教育の充実

共生社会の実現を目指す本学の理念を反映した地域の保健医療の支援のために、従来の「地域・在宅看護学」に加え「地域共創ケア」等の科目を設定する。さらに地域の中に「地域共創ケアセンター (仮称)」を設置し、学生が地域医療経験を積む場とする。

3.実習施設の充実

看護学部は千葉医療センター内椿森キャンパスとして、国立病院機構千葉医療センター内に置かれる。実習は千葉県の国立病院機構を構成する4国立病院（千葉医療センター、下志津病院、下総精神医療センター、千葉東病院）との連携で行われる。千葉医療センター内椿森キャンパスはJR千葉駅から至近であり、実習や演習が中心となる3・4年次学生にとり通学に便利である。

2) 入試（競合校の受験時期、入学手続時期との関係）

本学の入学試験日程等は競合校5校の受験時期及び入学手続時期等〈資料15〉を調査し、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜共に他校と重複しない日程で実施する。

3) 学生納付金、奨学制度などの修学支援の内容

初年度納入金は、競合校は1,950,000円前後であるが、本学では実習費等もすべて含め1,808,370円と抑えた金額とし、学生の負担をできる限り少なくしている。

また、新入生対象スカラシップ制度は、大学入学共通テスト利用入学試験A日程における成績優秀者に対し、入学金の全額免除に加え、1～4年次の授業料全額または半額を免除している。

4) 就職支援の内容

就職は、本学キャリア支援課の経験豊富なキャリアカウンセラーが支援を行っている。既設の保健医療学部の就職率は100%であり、看護学部についても同様となるものとみている。

就職先の見通しについては、千葉医療センター附属千葉看護学校の後を引き継ぐ形で、国立病院機構千葉医療センターと連携協定を結んでおり、主たる就職先となる。また、本学部開設に対しては、千葉県知事及び千葉市長より、県及び千葉市の病院へ卒業生を送り出してほしいとの強い要望を受けている。また、多くの病院より受け入れの要望を得ている。

他学部で実施している教員による病院等への出張講習、本学での講習講座等を看護学部でも実施し、卒業後も大学のサポートを受け、知識を広げ、技術を磨くことができる体制を整える。

5) 取得できる資格

本学看護学部で取得可能な資格は、看護師国家試験受験資格、保健師国家試験受験資格である。

看護師国家試験受験資格は、看護学部の卒業要件を満たすことにより受験資格を得ることができる。

保健師国家試験受験資格は、看護学部の卒業要件に加え、指定科目の単位取得により受験資格を得ることができる。選抜制とし、資格取得を希望する学生のうち、

適性や意欲、能力を審査したうえで決定する。千葉県の指導により 20 名を上限とする。

なお、保健師資格を取得した者のうち、教職免許法施行規則の定める特定の科目（日本国憲法、体育・スポーツ科目、国際コミュニケーション科目、情報機器演習より各 2 単位）を修得することにより、「養護教諭二種免許状」が取得可能である。また、保健師免許を取得した者は、都道府県労働局に必要書類を提出することにより「第一種衛生管理者資格」を取得することができる。

イ 競合校の入学志願動向等

競合校の入学志願動向は<資料 13>に示すとおりである。いずれも定員を充足している。競合校はいずれも定員が 100 名若しくはそれ以上であるが、本学は入学定員を 80 名と設定し、充実した授業を実施できる体制を整えている。このことから定員を十分充足すると言える。

ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等

令和 5 年度に定員を充足していない聖徳大学については、充足している令和 4 年度と比較して志願者・合格者数は横ばいであり、併願者が多かったために想定より入学者数が減少したことがうかがえる。すなわち、学生を確保する体制は競合校 5 大学共に整備されていると言える。よって、定員を充足するのに十分な学生の需要があると考えられる。

エ 学生納付金等の金額設定の理由

既設の保健医療学部リハビリテーション学科の初年度納入金は 1,898,370 円である。

また、令和 3 年度時点の全国の私立大学の看護系学科の平均は、1,821,278 円であり、本学が主な学生募集地域とする千葉県内の競合校では、淑徳大学 1,949,320 円、城西国際大学 1,962,000 円、帝京平成大学 1,978,300 円、和洋女子大学 1,933,900 円、聖徳大学 2,310,075 円である。上記競合校の初年次納入金及び本学看護学部への入学希望者の負担をできるだけ少なくすることを考慮し、植草学園大学看護学部では、初年度入学金を競合校より低い 1,808,370 円とする。

③学生確保に関するアンケート調査

植草学園大学看護学部における学生確保の見通しを中立性、公平性を確保した上で実施するため、実施主体は、第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）に調査を委託した。

令和 5（2023）年度時点での高校 2 年生に対し、「植草学園大学看護学部看護学科（仮称）設置構想についての高校生アンケート」を実施した。

調査目的：植草学園大学が 2025（令和 7）年度 4 月に設置構想中の看護学部看護学科（仮称）について、学生確保の見通しを検証するために高校生アンケート調査を行った。

調査期間：2023（令和 5）年 6 月～2023（令和 5）年 12 月

調査対象：植草学園大学が学生確保の基盤とする千葉県を中心とした関東圏及び本学他学部に入学者実績のある高校に 2023（令和 5）年度現在の高校 2 年生として在籍する生徒

調査内容：選択式 9 問

回答者の基本情報（性別、居住地、希望進路、興味のある学問分野）

設置構想中の新学部への受験・入学意向、若しくは「受験しない」を選択した理由

回答件数 15,845 件

千葉県 89 校、茨城県 8 校、東京都 4 校、埼玉県 3 校、群馬県 1 校、山形県 1 校、新潟県 1 校、秋田県 1 校、計 108 校の協力を得ることができた。「高校生アンケート調査」に際し、「植草学園大学看護学部看護学科（仮称）概要」として学部の概要、教育理念・養成する人材像、アドミッション・ポリシー、卒業後の進路、学部の特色、学費、アクセス等を具体的に示した上で回答を求めたところ、本学看護学部への受験・入学意欲についてのクロス集計の結果（卒業後の進路で（問 3）で「大学」、設置者の希望（問 4）で「私立」、興味のある学問分野（問 5）で「看護学」をすべて選択した者のうち、本学看護学部への受験意欲（問 7））がある者 467 人が「受験する」と回答した。また、受験意欲を示した 467 人に対し、合格した場合の入学意欲について回答を求めたところ、113 人が「第 1 志望志望として受験し、合格した場合入学する。」、334 人が「第 2 志望・第 3 志望として受験し合格した場合、志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する。」と回答した。「第 1 志望として受験し、合格した場合入学する」とした高校生は、植草学園大学看護学部の予定する入学定員 80 名を上回る結果となった。また、「志望順位が上位の他の志望が不合格の場合に入学する」と回答した 334 人を加えると看護学部への入学を具体的に検討しているものは、計 447 人となり、入学定員の 5.6 倍であった。以上の結果から本学「看護学部看護学科（仮称）」が計画している入学定員の確保は十分可能であると言える。なお、文部科学省「学校基本調査（令和 5 年度）」によると調査を行った千葉県の高校数は、全日制のみで 165 校であり、調査協力校の所在地の東京都 357 校、茨城県 106 校、埼玉県 167 校、栃木県 68 校、群馬県 63 校、秋田県 46 校、新潟県 91 校を含めると 1063 校である。令和 5（2023）年度時点での高校 2 年生（2025 年度に大学進学時期を迎える者）は 269,617 人となっている。本学が実施した「高校生アンケート調査」は 108 校 15,845 人の高校生の入学動向について調査した結果に留まっていることから、今後の広報活動を通して本学の「看護学部看護学科（仮称）」が広く認知されることで、調査結果を上回る志願者が見込まれる。＜資料 16＞

④人材需要に関するアンケート調査

設置構想についての人材需要アンケート調査の実施概要は以下のとおりである。

調査目的：植草学園大学が2025（令和7）年度4月に設置構想中の看護学部看護学科について、人材需要の見通しを検証するために人材需要アンケート調査を行った。

調査期間：2023（令和5）年6月～2023（令和5）年8月

調査対象：本学看護学部看護学科（仮称）の卒業生が採用を見込まれる機関・施設等

回答件数：100件

「設置構想についての人材需要アンケート調査」は本学「看護学部看護学科（仮称）」の卒業生の採用が見込まれる主に千葉県「医療機関」、「介護保険関連施設」、「訪問看護ステーション」「地方自治体」等、計617箇所にアンケート調査用紙を送付し、100か所から回答を得た。

看護師を採用したいと思うとの回答が80か所・143人、保健師を採用したいと思うとの回答が42か所・48人であった。

本学入学定員80名、うち保健師20名であることから看護師、保健師共に2倍以上の採用意向がみられる。＜資料17＞

（4）新設組織の定員設定の理由

令和5年度全国の私立大学の看護系大学の総入学定員数は、9,978名である。看護学部数は110学部であることから1学部あたりの平均は90.7名である。本学はそれを下回る入学定員80名と設定する。他大学の確保の状況及び学生確保の見通し調査結果及び人材需要調査結果から、新設する看護学部の入学定員の設定は妥当であると言える。